

令和 4 年度 第 1 回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録

【審議会概要】

日時	令和 4 年 9 月 30 日（金） 14：00～16：30
場所	武蔵野市役所 111 会議室
出席委員	福田敦会長、生駒耕示副会長、安藤孝委員、高橋勉委員、浅川絢子委員、淵上佳子委員、平湯友子委員、石渡志津委員、田川良太委員
事務局	吉崎産業振興課長、尾崎経済対策調整担当課長、佐々木係長、北村まちの魅力向上担当係長、藤木主任、須藤主事、森崎主事
専門部会 次第	1 開会 2 議題 (1) 会長の互選 (2) 報告事項 ア 第二期産業振興計画の概要 イ 統計データ等からみた武蔵野市産業の特性 ウ 第二期産業振興計画進捗管理状況（令和 3 年度分） エ 事業所・市民・近隣住民アンケート調査 実施状況報告 (3) 討論 産業の振興について 3 閉会
配付資料	次第 ・資料 1 武蔵野市産業振興審議会専門部会委員名簿 ・資料 2 武蔵野市産業振興条例 ・資料 3 武蔵野市産業振興条例施行規則 ・資料 4 武蔵野市産業振興庁内調整会議設置要綱 ・資料 5 第三期武蔵野市産業振興計画について ・資料 6 統計データ等からみた武蔵野市産業の特性 ・資料 7－1 第二期産業振興計画進捗管理まとめ ・資料 7－2 第二期産業振興計画進捗管理表（令和 3 年度版） ・資料 8 事業所・市民・近隣住民アンケート調査 実施状況報告 （計画及び報告書） ・武蔵野市第六期長期計画 ・第二期武蔵野市産業振興計画 ・第二期武蔵野市観光推進計画 ・武蔵野市農業振興基本計画（令和 3 年度改訂版） ・令和 2 年度緊急経済対策効果検証等結果報告書 ・令和 3 年度緊急経済対策効果検証等結果報告書 ・商店会活性出店支援金事業報告書

【議事】

1 開会

・市長あいさつ

市長	皆様におかれましては、ご多忙の中、武蔵野市産業振興審議会専門部会委員にご就任いただき感謝申し上げます。本専門部会は、令和 4 年 7 月 8 日に開催された
----	--

	<p>第一回武蔵野市産業振興審議会において、第三期武蔵野市産業振興計画の策定に必要な調査及び審議のために設置されたもので、令和4～5年度の二か年に渡ってご議論をいただく予定である。</p> <p>現行の第二期武蔵野市産業振興計画の進捗成果や目標管理を始め、市の最上位計画である第六期長期計画及び現在策定中の長期計画・調整計画も踏まえて、委員各位の豊富なご経験や専門知識に基づき、実りあるご議論を行っていただきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の長期化や、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響を受けた原材料価格の高騰は物価の上昇につながっている。市民生活が厳しい局面を迎えるにあたり、市として、どのような対応をしていくべきか、産業振興の面からもご議論をいただきたい。</p> <p>今後の国、都、各業界団体等の動きもしっかり捉えながら、武蔵野市が目指す「まちの魅力を高め、豊かな暮らしを支える産業の振興」を実現するため、委員の皆様のご活発なご議論を、よろしく願いたい。</p> <p>「CO+LAB MUSASHINO」は、事業連携を創出する新たな事業で今年のテーマは食と農のおいしい出会いとし、交流会を通じて、魅力ある製品開発等を進めている。関連イベントが11月13日に開催される。イベント後も農家と事業者の連携が続き、来場者が店舗に足を運ぶきっかけとなるような事業になって欲しい。食と農以外にも様々なものをコラボして産業振興に努めたいと考えている。このような視点からもアイデアを出していただきたい。</p>
--	---

- ・委員自己紹介
- ・事務局紹介

2 議題

(1) 会長の互選

- ・委員の互選により、会長に福田敦委員を選任した。

会長	<p>武蔵野市に限らず、人口減少、人手不足、需要減少は全国的課題である。以前は需要が供給に合わせる形だったが、今後は供給が需要に合わせる形に変わらざるを得ない状況になるだろう。産業振興はあらゆる産業がターゲットであり、商業的な消費だけではなく、福祉、子育て、働き方、SDGsについても考える必要がある。新型コロナウイルス感染症との共生や人口減少の課題がある中で、SDGs等によって社会的に価値を持つ企業に変わっていくことが、人手不足解消や生産性の向上につながる。</p> <p>第一期及び第二期武蔵野市産業振興計画の見直しをした上で、第三期武蔵野市産業振興計画は、2030年頃を見据えた中長期的なスパンで考えたい。</p>
----	---

- ・会長の指名により、副会長に生駒耕示委員を選任した。

副会長	<p>事業者の立場として意見等を出していきたい。本専門部会では、それぞれの分野で活躍されている委員の皆様最新の意見等を聞きながら、勉強させていただく。</p>
-----	---

(2) 報告事項

ア 第二期産業振興計画の概要

資料5 について事務局より説明

イ 統計データ等からみた武蔵野市産業の特性

資料6 について事務局より説明

事務局	<p>資料6のデータは、大部分が経済センサスに基づいている。新しいデータがリ</p>
-----	--

	リースされた場合、アップデートする考えである。
委員	図表2 昼夜間人口比率について、在宅勤務の人口が含まれている昼間人口のデータが得られれば、議論の参考になる。
会長	事務局は検討をお願いしたい。
委員	シニア世代が多くなっており、将来的にも増加するだろう。空き家率のデータがあればお示しいただきたい。空き家については課題が多い。
委員	マンションの一室ではなく、所有権付きの空き家についてのデータがよいと思われる。
事務局	空き家率は統計データではなく、現地での目視調査が必要である。 住宅対策課で、この2～3年の間に調査していたはずである。また、吉祥寺グランドデザイン策定の際にも調査結果を活用しているので、できる範囲で対応したい。
会長	空き家や空き店舗については、正確な数字を把握することが難しい。 例えば、住宅地図を使って5～10年のスパンで地区ごとに商店の業種等の構成が分かれば、立地の変化等を見ることができる。しかし、国のデータを使って統計データを整理することに比べて、手間がかかり限界がある。
事務局	空き店舗対策としては、新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策の関係で、商店会活性出店支援金を設けて、新たに出店する人に対して開業時に30万円、6カ月継続で30万円の支援金を出している。様々な業種が入ってきており、データが積みあがってきている。まちの移り変わりの参考データとしてお示しできると考えられる。
委員	図表11 創業比率の推移と合わせて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で閉店した店舗の割合もデータとして示すとよいのではないかと。
事務局	一つ一つの店舗の動きを取りまとめたデータは見当たらず、閉店率を示すことは難しい。 企業の倒産件数であれば、(株)帝国データバンクや(株)東京商工リサーチが調査したデータがある。武蔵野市の倒産件数は、この2年間で10件に満たない。他市に比べると少ないと認識している。
会長	比較的、開店の情報は得やすいが、閉店の要因が廃業と休業どちらによるものなのかは個別に調査しなければ正確には分からない。
事務局	統計データとしては難しいが、アンケート調査の中で廃業予定についての設問がある。廃業予定の割合や、廃業予定の業種分類等はできる。
会長	東京都が実施している調査「東京の中小企業の現状」では、事業承継や廃業の意向等を調査している。東京都の傾向として参考にできるのではないかと。

ウ 第二期産業振興計画進捗管理状況（令和3年度分）

資料7-1、7-2 について事務局より説明

会長	主観評価について、具体的施策のそれぞれの主管課が、産業振興の意識を持って取り組んでいるのかは、外部からは分からない。評価の在り方を検討する必要がある。 第三期武蔵野市産業振興計画を考えるに当たり、ゼロからの議論はできないため、第二期武蔵野市産業振興計画の評価を踏まえて議論を行う。
委員	第二期武蔵野市産業振興計画では農業についてあまり触れられていない。資料6によると、農家戸数及び農業従事者数は減少傾向にあり、後継者問題が要因と考える。 第三期産業振興計画における農業の位置づけを教えていただきたい。
事務局	農業については、武蔵野市産業振興計画の個別計画である農業振興基本計画

	<p>で詳細に議論している。また、令和3年度に改定したばかりであり、第三期武蔵野市産業振興計画では改めて議論する必要はないと考えている。</p> <p>農家戸数及び農業従事者数の減少については、お見込みの通りである。</p> <p>また、相続が発生した場合に、相続税を収めるために農地を手放していることが、農地が減っている要因になっている。</p>
--	--

エ 事業所・市民・近隣住民アンケート調査 実施状況報告
資料8 について事務局より説明

(3) 討論
産業の振興について

副会長	<p>所属する武蔵野市商店会連合会は、吉祥寺地区に東急百貨店を含む38会員、中央地区（三鷹駅北口武蔵野エリア）に14会員、武蔵境地区にイトーヨーカドーを含む11会員で構成されている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた会員もいるが、吉祥寺地区の中道通りは創業支援によって店舗が増えた。また、武蔵境地区のすきっぷ通りは国、都、市の支援によって以前の状況に戻りつつあると感じている。しかし、最近、客に支持されていた3店舗が撤退または移転した。ライフスタイルや購買動向の変化による影響があったと思われる。新型コロナウイルス感染症拡大の影響については、商業者に対して今後も十分な配慮が必要である。</p> <p>武蔵野市商店会連合会は今年70周年を迎える。12月に式典、講演会、懇親会を予定していたが、昨今の状況を考慮し、式典のみを開催する予定である。10年前の60周年式典で東京都商店街振興組合連合会の桑島会長が「商業者は地域のコミュニティを担う重要な存在である。」と話していた。商店街にある店舗は地域の安心、子育て環境の充実、高齢者の相談相手、文化の創造、伝承等の場として地域のコミュニティを担っている。以前はすきっぷ通りに50数件あった商店街の個人商店が、現在は5件になってしまい、今後、地域のコミュニティを担うのはインターネットやモバイルを活用した情報通信分野になる。これまでに店主が行っていたことをデジタルに落とし込み、商店会活動に取り入れることで、武蔵野市を住みやすいまちにしていかなければならない。中央地区（三鷹駅北口武蔵野エリア）ではデジタル導入が先行しており、武蔵境地区でも導入を検討している。第三期武蔵野市産業振興計画でも議論の対象となることを期待する。</p>
会長	<p>バーチャルの活用例として、運送会社の(株)ルーフィがある。実際に店舗がある店でネットショッピングモールを形成し、(株)ルーフィが配送を担当するシステムの特許を取得して実験的にサービスを開始している。リアル店舗とは別の良さがあり、デジタル社会に対応したサービスによって生活者の問題が解決する可能性がある。一方で、信頼性を確保するためにどのようにモニタリングしていくのか課題がある。2030年に向けて、大事な視点である。</p>
委員	<p>観光について、この5～6年で来街者の目線が変わった。旅行者の購買行動、旅行スタイルの変化が影響している。統計データは東京都の傾向を分析しているため外国人旅行者が訪問した場所として「吉祥寺・三鷹」(3.8%)、「青梅・御岳山」(0.5%)、「奥多摩」(0.5%)は割合が低いが、今後は付加価値の高い旅行が求められ、多摩地域は注目されている。</p> <p>マイクロツーリズムとは二酸化炭素を排出しない旅の事であり、近場で旅をすることを指す言葉ではない。お金では測れない価値のある旅が人気で、外国人旅行者もその傾向がある。一時期、武蔵野市内のドラッグストアでは外国人旅行者による買い占めが起こり、オーバーツーリズムが問題になった。地域住民を大</p>

	<p>事にする観光でなければならない。</p> <p>観光分野は長期的に取り組まなければならない。武蔵野市には付加価値の高いコンテンツが多くある。環境、福祉、農業等とコラボすればSDGsにもつながる。</p>
会長	<p>観光について、武蔵野市らしさを考える必要がある。</p>
委員	<p>事業承継が全国的な課題である。創業よりも廃業が多く、中小企業の数が増減しており、将来的にも減る構造になっている。</p> <p>多摩信用金庫では事業承継に力を入れている。武蔵野市がサポートネットを立ち上げたが、進まないと思われる。事業承継に悩む経営者は本音を言わない傾向にある。承継者を外部から探すことも大変だが、子どもに引き継ぐ方が親子間で話ができないことが多い。事業承継には5年かかる。70歳過ぎの経営者が多いなかで、どうすればよいのか、頭を悩ませている。こちらとしては、現場の意見を伝え、一緒に考えていきたい。</p>
委員	<p>統計データに5年前のデータが使用されていることが気になる。コロナ禍で状況は変化し、傾向が傾向でなくなっている。現状を正しく把握して次を考えるほうがよいだろう。</p> <p>評価の仕方について、数値目標をたてて評価するのが一般的である。目標3「都市の活力を担う産業振興」はサイトのアクセス数、駅の利用率や売上等、ユーザー側の実際のアクションで評価できる。WEBではダイレクトにアクセスログが取れるので活用してはどうか。</p> <p>目標4「情報化や国際化に対応した産業振興」について、ユーザー目線の意見としてはキャッシュレス化を推進して頂きたい。ICTについての相談が無かったとのことだが、経営者に苦手意識があるためだろう。費用負担の支援よりも、導入後の不安に対してサポート業者と提携して技術支援を推進するほうがよい。また、事業者が必要性を理解していない場合、デジタル効果を見せることが必要である。</p> <p>目標5「武蔵野市内で働く多様な人材による産業振興」について、統計データをみると高齢人口が増えていくことは普遍的である。また、武蔵野市の用途地域別面積比をみると8割以上が住宅系で、常住地における15歳以上の就業者をみると7割近くが武蔵野市以外で働いている。武蔵野市以外で働いている約7割の人が定年を迎えた後、市内でセカンドキャリアを実現し充実させることが市内産業の活性化につながる。地元での起業と事業承継をマッチングできるのではないかと考える。</p>
会長	<p>評価について、数値目標は大事である。計画を立てた後の視野を持って評価を考えていく必要がある。</p>
委員	<p>子育ての視点と一般企業者の視点から、武蔵野市はライフステージが変わっても様々な楽しみ方があるまちである。様々な年代の人が、一人でも家族でも友人同士でも、買い物、公園、図書館、芸術ホール、美術館、魅力的な店、動物園等に電車に乗って15分程で移動できる。子どもと子育てに係る大人、高齢者にとって重要なことである。</p> <p>今後の計画において、武蔵野市の特徴を維持し、また、何が必要なのか丁寧に考える必要がある。社会的弱者、高齢化や少子化の事を考えると、これからは楽しい手助けにあふれるまちを目指す視点が必要ではないか。外国では、「人に迷惑をかけなければ生きていけないので人には親切にする」という考え方をしている。一方で、日本は自己責任に溢れており、自立している人が多い武蔵野市では、その傾向が強いと感じる。人と人との関係が生まれやすい個人店との関係を大切に、見えない手助けや元気を生み出す仕掛けが欲しい。</p>

	高齢者、子どもたち、障がい者等へのサポートについて、学生ボランティアのアイデアを実現する場や連携があっても面白い。
会長	多くの人々が 100 歳まで生きる時代に移ろうとしている中で、チャンスを受け止めてもらえる街づくりの視点は大事である。
委員	武蔵野市には能力の高い人が住んでいる。シニア世代の第二創業や副業の比重が大きくなるのではないだろうか。これらを産業振興と捉え、新しい働き方、魅力ある人がスポットを浴びる仕組みがあれば、地域観光にもつながる。吉祥寺地区だけではなく、武蔵野市全体が魅力あるまちになって欲しい。
会長	住宅地が 8 割を占める武蔵野市において、産業振興をどのように推進するのか考える必要がある。住民と産業振興の間には距離がある。住民の暮らしやすさやニーズに合わせて地域資源や人材を循環させることで課題を解決し、ビジネス化していく仕組みづくりが必要である。供給側が需要に近づいていく視点で議論の余地がある。
委員	調査の中に答えを見つけようとする時間がかる。仮説を立てて解決策を考えるほうが良いだろう。 武蔵野市には外食産業の本社が立地しているが、今後外食産業を取り巻く環境が厳しくなり市外に移転してしまうと税収に影響する。また、所有権付き物件を積極的に購入している市内事業者による税収も大きく、吉祥寺地区ではダイナミックな不動産投資が行われている。しかし、供給過多でテナントが埋まらない状況がある。また、土地はあるが用途地域の制限で容積率の大きいビルを建てられずにいるオーナーもいて、バランスが悪い。 武蔵野市の財政は今のところ安定しているが、今後はどうなるか分からない。ネットとの高度な融合、定年後の人材の活用等の面で仮説を立てて解決策を議論できればよい。
会長	調査で明らかになったことや統計的なことも大事だが、中長期的なスパンで見ると、今後起こることを予測し仮説を立てたものを積極的に取り入れることは大事な視点である。計画への反映を検討してはどうか。
委員	これからの議論に期待する。良いまちとは、人によって様々な好きがあふれているまちをイメージしている。思い描いたまちの実現を目指して、産業振興の視点で取組みたい。
会長	各委員の視点を取り込み、次回以降も活発な議論をお願いしたい。 日頃、学生と接する中で、彼らはデジタル・デバイスの扱いは強いが、読書離れもあって文章力は弱くバランスが悪いと感ずることがある。 視野を広げる意味から、まちなかをキャンパスとして学生がまちに出て行き、大人が受け入れる環境づくりが必要である。学生目線での産業振興、学生と大人の両方が学びあえる関係性を築ける産業振興を取り入れてはどうか。目標 5「武蔵野市内で働く多様な人材による産業振興」における大学生の活躍の場づくりが出来ていない。アクティブな学びを街中で実現する研究課題を与えれば、学生から意見が出てくる。学生の潜在的な力を産業振興に使うことも大事である。

・その他

事務局	次回第二回専門部会は 11 月 25 日 14 : 00 に開催予定である。アンケート調査結果の報告、及び 10 月以降に実施する事業者ヒアリング調査結果を報告する予定である。 専門部会の審議内容については、事務局から審議会に報告する。
-----	---

3 閉会